

はじめの一步

桜木小・4 近藤 萌野

「どんな習い事をしているの？どこの教室なの？」

ようち園の年中の時に、とても仲の良かった大好きな友達に聞いたのがきっかけで、今でも続けている習い事があります。それは、ピアノです。ピアノを習い始めたきっかけは、ピアノが好きというより、その友達と少しでもいっしょにいたくて、同じピアノの教室に通いたいと思って始めました。

だから、習い始めたころは、音ぶも読めなくて、先生の言っていることもわからないまま教室に行っていました。絵のついたカードやカスタネットを使ったレッスンで、けんばんをさわれるようになったのは、何回目かの時からでした。毎週、友達に会えるのを楽しみにしていました。

ピアノ教室は、一年に一度、練習の成果を見てもらう発表会があります。初めての発表会では、大好きな友達と連弾をすることができてとてもうれしかったです。とても短い曲だったけど、楽ふを見ないでひくことができました。曲をひき終わると、見ている人達みんなが大きなはく手をしてくれました。てれくさい気持ちと、うれしい気持ちになったのを今でも覚えています。

一年生になって、友達とは学校がはなれてしまい、会える時間が少なくなってしまったけれど、ピアノでひける曲がふえてきてとても楽しくなってきたので、がんばって続けることができました。

二年生になると、コロナウイルスがやはり始めて、習い事のやり方もすごく変わってしまいました。教室には、お母さんも入ってきていたのがだめになり、げん関でけん温や消どくをして、先生と二人きりのレッスンになりました。きんきゅう事たいせん言が出たときは、オンラインレッスンになってしまいました。オンラインレッスンは、音がと切れてしまったり、ぎつ音が入って聞こえにくかったりしたし、えいぞうが止まってしまいうこともありました。そして、友達とも会えなくなってしまったので、オンラインはすぐきらいでした。人が集まるのは良くないからという理由で、この年の発表会は中止になってしまい、とても残念でした。

三年生になると、曲もむずかしくなってきました。一曲が長くなり、楽ふの中に記号もたくさん出てきます。楽ふ通りにひけるようになるために何回も何回も練習をします。でも、なかなか上手にひけなくて、いやになってしまいうことが何度もありました。それでも友達と発表会でいっしょにひくのを楽しみにがんばってきました。

ある日、友達から連らくがありました。

「夏休みに引っこすことになったよ。」
と言われました。今までいっしょにがんばってきた友達がなくなってしまうのがとてもさみしくなり、ピアノをやめようかなやみました。でも、友達は、

「引っこした先でもピアノをがんばるよ。」

と言ったので、わたしもやめないで続けようと決めました。

この年の発表会は、大好きな友達ではなく、初めて会う年下の女の子と連弾をすることになりました。わたしが引っぱっていかないといけないんだと思い、いつもよりしっかり練習しました。その

おかげで落ち着いて発表することができて、とても良かったです。連だんをした子のお母さんにもほめてもらえてうれしかったです。

毎年、冬にある発表会が今年は教室の都合で五月になりました。前回の発表会が終わってすぐだったので、とても大変でした。連だんと合わせて四曲を暗ふしなくてはいけないので、必死に練習しました。当日は少しミスをしてしまったけれど、お母さんとお父さんは、

「去年よりも上手になっているよ。すごいね。感動したよ。」とほめてくれたので、とてもうれしかったです。

最初は、大好きな友達に会いたくて始めたピアノだったけれど、ピアノを楽しんでいるようになれて、やめずに続けてこれて良かったと思います。

これからも続けていきたい習い事です。